

# 政治学概論 |

(10) 政治参加と多元的な社会

# 政治参加の方途

- ◆ 政治家（議員・首長）になる 選挙・政党というハードル
  - ◆ 中間団体に所属して政治（的）活動をする  
利益団体・圧力団体（労働組合、各種業界団体など）  
市民運動  
→ 政治的要求を持ち政党・首長・議員・行政・世論  
(メディア)に働きかける
- 労働政策（労働条件）、環境政策、産業政策・・・

# 政治と市民との回路

中間団体 = 本来の目的は政治活動ではないことが多い  
ある共通の利益を持つ集団を代表して、政治活動を行う  
→ 政策要求 政治の側の判断、その団体の影響力

◆ 政治献金・集票活動などの選挙支援 ◆  
= 利益政治との関連

ある団体の利益は、他の団体・団体外の市民の利益と反する?  
ある団体の政治的要求は、その他の人々の利益につながる?  
→ 政治の難しさ

## エリート民主主義と多元主義

代表者（選良・エリート）のリーダシップ重視

= エリート民主主義 シュンペーター（米）

→ 政治家の資質、決定の制限、官僚制、民主的自制

※ 政治の安定性を重視

多くの利益集団の競合による権力と統治・複数の支配

= 多元主義、ダール（米）

→ 政治的平等、公的な異議申し立て、有効な参加と情報の普及

※ 政治の包括性を重視

# 現代の政治参加の状況

政治的無関心→利益集団の影響力低下（特に労働組合）

共通の目的のための「団結」より、個々の利益  
薄らぐ「参加」の意欲と政治の「凝集性」「包括性」

自由主義と民主主義の両立→新たな局面に入る

「自由」な個人は、孤立化へ向かいがち？

「民主」の代表制が低下している？

統合する政治力の欠如